

うらやす
P-Life

男女共同参画ニュース
多様性社会推進課・ルピナス

Vol. 26 2024年3月

P-LifeのPとは
Personality (個性・人格)を尊重する
Positive (積極的)な生活に
Plusとなる情報紙という意味です。

すべての人が互いを認め合い 共にかがやくまち うらやす

特集

知っておきたい、 アンコンシャス・バイアスのこと



イメージに
偏りはない?



性別による
役割への無意識の
思い込みがある?

なぜ日本の
ジェンダー・ギャップ指数は
146か国中125位?



「アンコンシャス・バイアス」は「無意識の思い込み (または偏見)」と訳される言葉で、自分自身では気付いていないけれど偏ったり、歪んだりしている「ものの見方や捉え方」のことであり、男女の格差をつくる要因と考えられています。男女の格差を測るジェンダー・ギャップ指数で、日本の順位の低さの一因ともなっています。

性別による役割分担の偏りはコレが要因の1つ!?

私たちの中にある アンコンシャス・バイアス

家事労働は女性が多く、長時間労働は男性が中心…。家庭や職場、地域で性別によって担う(期待される)役割に偏りがあると感じたことはありませんか? 家庭における性別役割分担や職場・地域における男女の状況について、市民が感じる「無意識の思い込み」を探ってみましょう。

アンコンシャス・バイアスはなぜ問題?

「アンコンシャス・バイアス」は、それまでの人生経験や育った環境の中で無意識に刷り込まれた考え方やものの見方です。こういった「無意識の思い込み」が自分でも気付かないうちに表面化し、ある価値観や理想像を押しつけたり、決めつけたりしてしまうおそれがあります。また、それが原因で、自分自身や別の誰かの生き方・働き方に影響を及ぼしてしまう可能性があります。

アンコンシャス・バイアスの例

- 「普通(常識で)はこうだ」という価値観の押しつけ
- 「どうせムリだ」「できない」という能力の決めつけ
- 「こうあるべきだ」「こうでないとダメだ」という理想の押しつけ



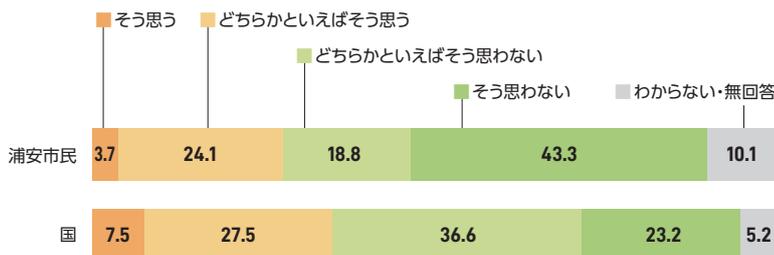
市民も感じているアンコンシャス・バイアス

家庭・職場・地域社会という3つの場面で、市民はどのように感じているのでしょうか?

家庭における性別役割分担の考え方や、職場での女性の活躍度、地域社会での女性の参画率という側面から調べてみました。

1 家庭編

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方への賛否



家庭における「アンコンシャス・バイアス」の一例として、夫と妻の役割分担への考え方があります。浦安市の場合、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方」を支持する人の割合は、国の調査より低くなっています。

市民の声
①

家庭で感じる アンコンシャス・バイアス

家庭において、どのような意識や慣習が女性・男性それぞれの暮らし方に影響しているのでしょうか?

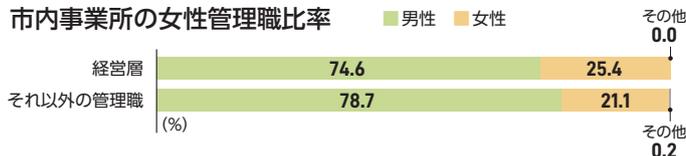
- ◆ 男性の働き方改革が進まないと、女性の家事・育児の負担は減らないと思います。(男性・20歳代)
- ◆ 妊娠と出産は女性にしかできないことだが、育児は男性にもできる。女性と男性が公平に育児・家事・仕事を行えるような社会が理想である。(女性・40歳代)

2 職場編

女性従業員の管理職登用の考え



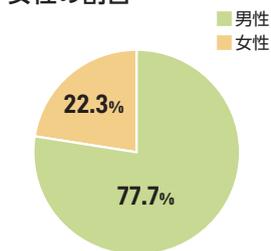
市内事業所の女性管理職比率



「アンコンシャス・バイアス」が働き方に及ぼす影響の1つに、管理職の割合に性別の偏りがあることです。職場によって状況や理由はさまざまですが、共通しているのは管理職の大半は男性が占めるというもの。浦安市では、「女性従業員の管理職登用は不可欠であり、積極的に進めたい」と考える事業所が多くあります。その一方で、管理職に占める女性の割合は増加傾向であるものの、管理職に男性が多い現状が見られます。

3 地域編

自治会役員に占める女性の割合



地域社会で見られる「アンコンシャス・バイアス」として、自治会の役員の割合に性別の偏りがあることが挙げられます。浦安市では、自治会役員に占める女性の割合は22.3%となっており、全国(6.8%・令和4年)と比べ多いものの、地域社会において女性のさらなる参画が求められます。

市民の声

②

職場で感じるアンコンシャス・バイアス

女性管理職の登用意欲が高い一方で、実態は異なる現状に市民はどのように感じているのでしょうか？

- ◆ 男尊女卑の旧来思想に基づく慣習や制度は相当程度改善されてきていると思います。ただ、女性の社会進出を阻んでいるのは、「女性だから仕事を任せない」「幹部登用しない」といった考えよりも、女性自身が家庭と仕事の両立が困難な状況を認識し、自ら身を引かざるを得ない状況にも原因があると考えます。(男性・30歳代)
- ◆ 一般の会社では、まだまだ男性優位だと感じます。女性の管理職が少ないため、決定事項は男性目線。「雑用、掃除、おつかいは女性がやればいい」では、とても平等とは言えません。生涯賃金の差もあまりにも大き過ぎて、女性のモチベーションが上がりません。(女性・40歳代)

市民の声

③

地域で感じるアンコンシャス・バイアス

地域社会で女性の参画が進む一方で、まだまだ旧態依然とした考え方や慣習が残っていると感じる市民もいます。

- ◆ 地域社会における男女平等は、まだ改革の余地が多く残っている。(女性・40歳代)
- ◆ 自治会活動への女性の参加が少ないので、育児や介護のサポートなどの制度が有ると良いと考えます。(男性・40歳代)
- ◆ 自治会自主防災組織の役員に、より多くの女性の参加が求められます。(男性・60歳以上)

出典：浦安市「第3次うらやす男女共同参画プラン」(2022年)
浦安市「男女共同参画社会づくりに関する基礎調査報告書」(2022年)
内閣府男女共同参画局「令和5年版 男女共同参画白書」(2023年)

自分にもあるかも!?! /

アンコンシャス・バイアス チェックシート

「はい」と思う項目にを付けてみましょう。

右記の項目に1つでもチェックがついたら要注意。その「無意識の思い込み」がどこから来たのか、振り返ってみましょう。そうすれば、「思い込み」をなくして、視野をより広く持つことができるかもしれません。

- 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ
- 女性には女性らしい、男性には男性らしい感性があるものだ
- 組織のリーダーは男性のほうが向いている
- 仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い
- 家事・育児は女性がすべきだ
- 女性は感情的になりやすい
- 男性は仕事をして家計を支えるべきだ
- 大きな商談や大事な交渉事は男性がやるほうがいい
- 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきではない
- 自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ

出典：内閣府男女共同参画局総務課
「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)チェックシート」(2021年)

新しい意識で乗り越えるアンコンシャス・バイアスの壁

浦安市の調査や市民の声から読み解ける「アンコンシャス・バイアス」について、
田中 東子 教授 (東京大学大学院 情報学環教育部) にお話しをうかがいました。

浦安市から見える新しい意識と アンコンシャス・バイアスのせめぎ合い

浦安市は首都圏に近く、共働き世帯も多い地域だと思えます。そうした地域の特徴として、「『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方』は古い考え方なんだ」という意識が浸透していると言えるでしょう。また、働き方の面でも「女性と男性は平等であるべき」「古い性別役割分業は良くない」といった意識が浸透しています。

その一方で、現実では、家庭においても職場においても、過去の考え方が「アンコンシャス・バイアス」として残っており、意識と実態が合致していない様子がうかがえます。例えば、家庭であれば育児や介護などのケアワークを期待されているのは、男性と女性、どちらが多いでしょうか？ 職場においても、女性と男性に求められる役割はどれくらい変わったのでしょうか？

意識の上では、男女平等に賛成し、性別役割分業を脱するほうが良いとみんな分かっているけれど、慣習として、家庭でも職場でも女性と男性のタスク（仕事）量の不均衡が残っています。そもそも、「女性が活躍するのは生意気だ」という「アンコンシャス・バイアス」が根強くある中で、「女性の管理職を増やしたい」と行政や企業が前向きになったとしても、戻り込んでしまう女性は少なくないでしょう。

ジェンダー平等が進む可能性を感じさせる 浦安市の地域参画

浦安市で興味深い点は、消防団員に占める女性の割合の高さです。2026年までの目標値30%に対して、2024年で27.7%もあることに驚きました。自治会の女性役員の割合もこれから増えていく可能性があるでしょう。

2024年1月に発生した能登半島地震では、311の教訓から、避難所のリーダーに女性を増やす動きがありました。地域活動に参加する女性が多ければ、災害時の避難所運営などで女性の力が発揮されると期待できます。浦安市の消防団員や自治会役員に女性が増えることでどのような変化が起こっていくのか、ぜひもっと広報していただければと思います。

SDGsの実現は 「アンコンシャス・バイアス」に気付くことから

2023年6月に発表されたジェンダー・ギャップ指数によって、所得の面でも政治参画の面でも日本は諸外国とかなりの差があることが分かりました。その一方で、日本の女性の幸福度は高いというデータ*もあります。

格差があるのに幸福度が高い理由として、女性自身が不平等であることに気付いていない可能性が考えられます。若い世代ほど柔軟ではあるものの、男性はもちろん、女性自身もジェンダーに関する「アンコンシャス・バイアス」を内面化しているの、「家事育児などのケアワークは女性がやって当然」と思い込み、その思い込みに沿った行動を選択しています。不平等であることに気付かせないようにしているのが「アンコンシャス・バイアス」の機能であり、日本の社会では今もその機能が作用しているように感じます。

こうした状況を脱し、社会を少しずつ平等なものに変えていくには、まずは自分の中の「アンコンシャス・バイアス」に気付くことが欠かせません。「アンコンシャス・バイアス」という言葉を知り、その事例を学ぶことも大事なステップです。

「アンコンシャス・バイアス」は、長い時間、無意識的に教育や人生経験の中で私たちに刷り込まれてきました。それに気付いて変えていくのは時間がかかるし大変なことです。若い世代を中心に意識が変わりつつあることは事実です。1人ひとりが自分の中にある無意識の思い込みに気付いていくことで、ゆくゆくはSDGsが掲げる世界標準のジェンダー平等に近づいていくのではないかと思います。

*出典：内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書 平成26年版」(2014年)

田中 東子 教授 (東京大学大学院 情報学環教育部)

専門分野はメディア文化論、ジェンダー研究、カルチュラル・スタディーズ。早稲田大学大学院政治学研究科後期博士課程単位取得退学後、早稲田大学教育学部助手および助教、十文字学園女子大学准教授、大妻女子大学文学部教授を経て、現職。第三波以降のフェミニズムやポピュラー・フェミニズムの観点から、メディア文化における女性たちの実践について調査と研究を進めている。



多様性社会推進課・ルピナス information

多様性社会推進課・ルピナスでは、「講座の開催や図書の出し等を通じての情報提供」・「相談事業」・「市民の交流・ネットワークづくりの支援」をしています。

開所時間／場所

時間：月～金 8:30～17:00
(土・日・祝・年末年始休み)

場所：文化会館2階 TEL：047-712-6803

相談

女性が抱えるさまざまな問題を自ら解決するための支援をしています。

- 女性のための相談 (予約制)
… 第1～第4 火・木 10:00～16:00 ※14:30～20:00の場合あり
- 女性のための法律相談 (予約制) … 月2回

人権に関するさまざまな問題について、法務大臣から委嘱された人権擁護委員が相談に応じます。

- 人権相談 (予約制) … 毎月 第2月 13:00～15:00



相談室

個室で相談が受けられます
※秘密は守られます